

日本の財政の未来

一橋大学経済学研究科教授 佐藤 主光

- *三位一体の改革とは何か、なぜ必要か
- *潮目が変わり、経済は正常化しつつある
- *人口と出口が違う経済政策の問題点
- *財政政策は民意とマーケットの両にらみに
- *持続可能性をはかるドーマー条件
- *メリハリを重視する財政規律派
- *コンセンサスがでない財政赤字の認識
- *日本が欠く現役世代のセーフティネット
- *「負の所得税」を実現する方法
- *日本は急激なショックは避けるが痛みを先送り



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、石橋湛山賞受賞記念講演会としまして、今年度の受賞者、一橋大学経済学研究科の佐藤主光教授に来ていただきました。

佐藤先生は、一橋大学経済学部をご卒業後、一橋大学の国際・公共政策大学院院長、社会科学高等研究院医療政策・経済研究センター長、経済学研究科長を務められて現在に至っていらっしゃいます。政府の税制調査会委員など、政府でもたくさんご発言をなさっています。

本日は、ご講演に先立ちまして、石橋湛山記念財団の石橋省三代代表理事からお言葉をいただきますと思います。石橋さん、よろしくお願いたします。

佐藤 主光
石橋 本日は、石橋湛山賞の受賞記念講演会

にお越しいただきまして誠にありがとうございます。授賞式は昨年11月にございまして、本日は経済倶楽部のご厚意により、定期講演会の1回を拝借いたしました。開催させていただきました。ありがとうございます。

石橋湛山賞は山縣理事長も最終選考委員の一人なのですが、いろいろ選考基準がございます。最終選考委員会の議長としては、啓蒙性を重視して、啓蒙的な書物をなるべく選んでいる次第でございます。今日は衆議院解散の日ですが、受賞作となった佐藤先生の『日本の財政』は、大きなテーマの一つである日本の財政につきまして、非常に一般の方にもわかりやすく書かれた書であり、今回の石橋湛山賞として選ばせていただきました。